

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol use in donors is a protective factor on recipients' outcome after heart transplantation. 心臓提供者がアルコール使用していると移植を受けた者の予後は良い	
執筆者	
De La Zerda DJ, Cohen O, Beygui RE, Kobashigawa J, Hekmat D, Laks H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Transplantation. 2007 May 15;83(9):1214-8.	
キーワード	
心臓移植、アルコール飲用ドナー、慢性アルコール使用	
要 旨	
<p><b>背景：</b> 心臓移植の予後は提供者の選択に大きく影響される。心臓移植提供者の候補者にアルコール依存を持った人たちが存在する。そこで提供者のアルコール飲用歴と提供を受けた者(recipient)の移植後の予後について検討した。</p> <p><b>方法：</b> 2002年1月より2005年の9月心臓移植が行われた連続的な437症例を検討した。患者の病歴については後ろ向きに検討した。平均追跡期間は<math>3.14 \pm 1.9</math>年(3日—6.5年)である。研究対象者はアルコール依存提供者(ADG)とアルコール非依存提供者(NADG)に分類された。アルコール量の判明した421名のうち、98名がADG、323名がNADGとされた。平均年齢はそれぞれADG群で35.3歳、NADG群で33歳であった。</p> <p><b>結果：</b> 累積死亡率はADG群で7.1%(7/98)、NADG群で17.1%(55/323)であった。移植から死亡までの平均期間はADG群で27.7ヶ月、NADG群で16.4ヶ月であった。生存期間(抄録中には率とある)はADG群で有意に長かった(ADG群72.8ヶ月、NADG群66.2ヶ月)。拒絶反応率は両群で変わらず、拒絶反応なし期間も両群に差はなかった。</p> <p><b>結論：</b> 慢性アルコール飲用歴のある提供者からの提供は心臓移植後のrecipientの予後に防御的にはたらいていた。有意な差は死亡率、移植後の生存期間に認められた。以上より、提供者の心臓はアルコール依存歴に関わらず用いることができることが支持された。</p>	